

回答期間：令和5年2月1日（水）～10日（金）

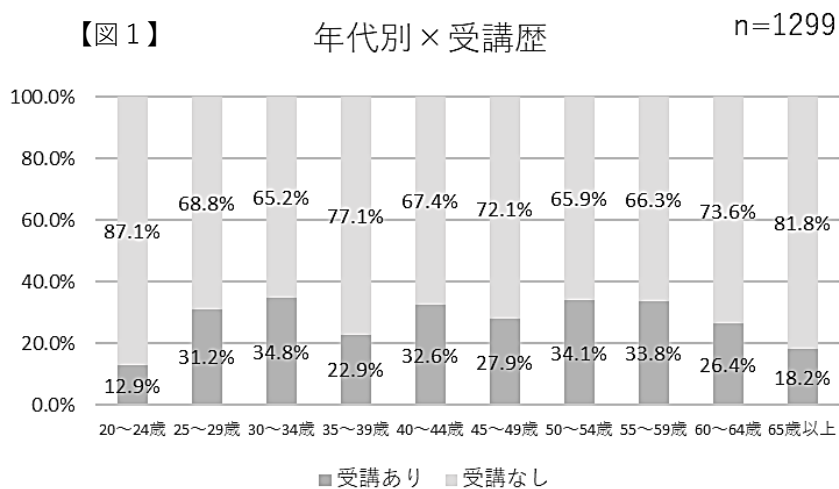
対象者：全職員（職場人権教育研修対象者）

対象人数：2,265人

回答数：1,299人（回答率57.4%）

（1）研修受講歴について

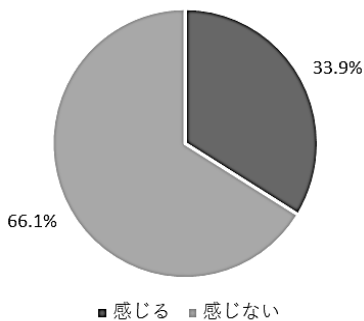
- ・受講歴のある方は、回答者全体の約30%にあたる384名で、年代別の受講歴はどの年代もおおむね30%前後である。「20～24歳」、「65歳以上」は、他の年代と比較してやや低くなっている。（図1）



（2）ゲートキーパーについて

- ・ゲートキーパーの役割を遂行する中で不安や難しさを感じる人の割合は33.9%であった。（図2）

【図2】 ゲートキーパーの遂行に不安や難しさを感じる人の割合 n=384



【表1】 不安や難しさを感じる理由

・ 対応方法が分からない、難しい、自信がない
・ 「正解」となる適切な対応が分からない
・ 相談者に寄り添った支援の実現ができない
・ 命にかかわる相談のため責任が重い
・ 相談を受けることの負担が大きい
・ 対応に限界がある（マンパワーの限界）
・ 相談者の悩みや本音を理解することが難しい
・ 相談者の問題の根本的な解決ができない
・ 対応・支援に対する効果が得られない

(3) 行動変容について

【表2】 質問項目	「あてはまる」人の割合		特徴
	受講歴あり	受講歴なし	
1 自殺や心の健康問題に関心をもっている	87.4%	60.0%	
2 “ゲートキーパー”という言葉聞いたことがある	91.8%	37.9%	・受講歴の有無で、割合に50%以上の差がある。 ・受講歴ありの人のうち、「受講後からあてはまる」と回答した人が50%以上である。(図3) ・年代別でみると、「20～24歳」、「65歳以上」で割合が低い。
3 心の不調のサインやゲートキーパーの役割を知っている	91.8%	22.0%	・受講歴の有無で、割合に50%以上の差がある。 ・受講歴ありの人のうち、「受講後からあてはまる」と回答した人が50%以上である。(図3) ・年代別でみると、「20～24歳」、「65歳以上」で割合が低い。
4 周りの人の心の不調に気づいた時、ゲートキーパーの役割をとることができる	72.1%	23.8%	・受講歴ありの人のうち、「受講後からあてはまる」と回答した人が50%以上である。(図3)
5 職務やプライベートで悩んでいる人に気づくことができる	76.5%	58.8%	・受講歴が直近であるほど「あてはまる」と回答した人の割合が高い。
6 職務やプライベートで悩んでいる人に声をかけることができる	78.0%	67.0%	
7 悩んでいる人の話を傾聴する(相手の立場に立ち、共感しながら話を理解しようとする)ことができる	90.7%	82.4%	・すべての年代で割合が高く、特に「20～24歳」、「65歳以上」の割合が高い。 ・他の項目と比較して、受講の有無にかかわらず「あてはまる」と回答した人の割合が高い。
8 周りの人や自分の心の不調に気づいた際の相談窓口を知っている	90.4%	43.0%	・受講歴ありの人のうち、「受講後からあてはまる」と回答した人が50%以上である。(図3) ・年代別でみると、「20～24歳」、「65歳以上」で割合が低い。
9 相談を受けた後、自分が悩みや不安を抱えた際、一人で抱え込まず誰かに相談することができる	87.2%	71.7%	

【図3】 受講の有無×行動変容 (%)

n=1290

